

## 安達太良山スキー山行報告

【日程】 2019年3月2日(土)～3日(日)

【山 域】 福島県 安達太良山 1700m

【参加者】 CL 菊池、川上、井上里、瀧瀬、田形、飯郷(会員外)、加藤

【報告】

3／2 (加藤記)

奥岳駐車場 9:50→リフトトップ→薬師岳―南東側の斜面→安達太良山→稜線→振子沢→くろがね温泉小屋(泊)



安達太良高原スキー場のゴンドラは無雪期のみの営業なのでリフトを2回乗り継いだ。数日間降雪がなかったせいか、雪面は氷化している箇所があり、クトー(スキーアイゼン)を装着する。五葉平はツツジの灌木帯で白い安達太良山山頂と黒い矢筈森の頂が並んでよく見える。薬師岳と呼ばれる平坦地から山頂の南東側に無木立の白い



斜面が望まれ、さっそく少し残ったパウダーを一本滑ることにした。CL は雄叫びとともに滑降し、我々も次々と今シーズン最後のパウダーを頂いた。



登り返し、山頂に近づくにつれ、雪が吹き飛んで土や岩がむき出しになっている。靴用のアイゼンに履き替え山頂によじ登るが、多くの登山者で順番待ちであった。



スキーをザックに付けて矢筈森方向へ向かうが強風のため身体があおられそうである。峰の辻への下山道を少し下り、右下に見える緩い斜面を滑ったがモナカ状で滑りにくい。峰の辻に登り返し麓山の北東の勢至平に向かう登山道とくろがね温泉小屋に向かうトラ





バース道に挟まれたトイ状の「振子沢」を滑ることにした。最初は幅広い谷で快適であったが、下部は幅が狭くなり氷化していたため横滑りで登山道に合流した。今宵の宿「くろがね温泉小屋」は目前である。さっそく白濁の湯に浸かり至福のとき過ごし、小屋名物のカレーライス（今回はおかわりOK）を賞味した。

### 3/3 （田形記）

コース：くろがね小屋(8:00)→矢筈森下滑走―振子沢源頭(10:00)→くろがね小屋(11:00)→勢至平→馬車道→あだたら高原スキー場→駐車場(12:00)

朝方の冷え込みで何度か目が覚め、布団でうとうとしていると周りがザワザワしだすと





お替りし今日 1 日の活力を十分に補充した。荷造りして外に出ると、朝の冷え込みで雪面が締まっており、菊池リーダーからアイゼン装着指示が出る。快晴に雪山が映え素晴らしい景色を各々楽しみながらゆっくり準備し、8 時前に小屋前で記念写真を撮り出発。小屋前の急登を登ってしまえば、後は比較的緩やかな登りで、樹林がなく開けた景色の中、アイゼンを利

ともに薄明るくなり、山スキー2 日目がスタートした。今日は矢筈森方面へ上り返し上部から滑降予定のため、不要な荷物を小屋にデポするが、お酒の残りや食器類を仕分けるも大して軽くならないのが残念。朝食 (6:30) は温かいご飯と味噌汁、温泉卵など質素ではあるが山で食べる食事はとても美味しく、皆



かせてテンポ良く登高し、峰ノ辻手前にノートレース斜面を見つけ早速リーダーが偵察。OKサインを確認し、滑走面を荒らさないように1列で上部を目指し直登する。登山道より相当急傾斜にもかかわらず、キツイ、苦しいとの弱音はだれからも聞こえてこないのは、これからの滑降で頭の中が一杯で苦しさを感じていないのかも。滑降準備が出来た人から自分の好きなコースを思い思いに滑り、表層がプチパウダーで最高に楽しい。振り返れば、自分のトレースが見え、今し方滑った感覚がよみがえる。



1本目が思いのほかコンディションがよかったので、すぐ隣の振子沢枝沢上部も期待できそうに見える。次もリーダーが早速偵察に入るが、雪面が硬くウインドバックされている状態で、全員で登高しながら雪面を荒らす指示が出され、他者の踏み跡を避けて足踏みしながら登るためかなりハード。雪面は自然のままで、自分が雪面に合わせた滑りをするものと思っていたので、難しい斜面を自分たちで滑りやすい状態に変えることができるとは予想しておらず、非常に勉強になる。リーダーから滑降の注意点をレクチャーいただいた後、お手本の滑りを目に焼き付けて、各々がスピードをコントロールしながら慎重に滑り、雪面を荒らした所は斜度があり狭いが、恐怖感もなく容易にターンでき効果を実感。



登山道より下は広いノートレース斜面で、表面コンディションも場所により大きく変わる難しい斜面のため転倒しない様にボーゲンで滑るが、なかなか楽しく、また、ボ





ーゲンがこれ程役に立つ技術とは思っていなかった こともあり、収穫の多い山行とな

った。 谷筋まで降りると昨日のコースに合流し、前日滑走のおかげで滑りやすく、くろがね小山まであっという間に到着。 デポした荷物を回収ししばし休憩をとり下山開始するも、小屋下の登山道は川まで滑落の危険があるため、 アイゼンに履き替え勢至平までツボ足で、それ以降はスキーで滑るも狭く木が邪魔で滑りにくいが、歩きよりも 断然



早い。馬車道まで来るとそれなりには広くなるが、ターンしながら滑る程の広さもなく、スピードコントロールは 専らボーゲンで、だんだん足が辛くなるため、休み休みコードを下げ、下まで雪が付いていたので板を外すことなく 滑り降りることができた。 最後はスキー場



のゲレンデに出て、僅かな距離を駐車場まで滑ったが、整備ゲレンデの滑りやすさに感動。 岳の湯で疲れを落とし帰途につき、途中、菊池 CL イチ押しの上品なレストランに立ち寄り、ちょっと遅めのランチを いただいた。 お値段手ごろでボリュームがあり、デザート、コーヒーまで付いており、山行帰りであることをしばし忘れてしまう様な心地良い雰囲気のお店（空の庭）でした。

安達太良は数年前に山スキーで入山するも天候が悪く、くろがね小屋往復で終わってしまったこともあり、リベンジで参加したが、2 日間とも天気に恵まれ、雪の状態も良く山スキーを十分に堪能できました。 菊池リーダーと山行メンバーに感謝です。